

No.16 教材例（3）職場体験事業所決定に向けて例①（大竹市立玖波中学校）

ワークシート1

年 組 番/氏名 \_\_\_\_\_

1. 体験学習であなたが学びたいこと。

1

2

3

2. 体験先の人がどのような気持ちで受け入れて下さるのかを考えてみましょう。

中学生を受け入れて期待すること

期待にこたえるために頑張ること

中学生を受け入れて不安なこと

自分たちが頑張らないとならないこと

3. 職場体験に向けて、自分たちの課題を踏まえ、どんな目標を考えましたか。

**ワークシート2**

※自分なりに目的意識をしっかり持って、職種や事業所の選定を行いましょう。

職種名	選んだ理由は？ どんなことをがんばろうと思いますか？
第 1 希 望	----- ----- ----- ----- ----- -----
第 2 希 望	----- ----- ----- ----- ----- -----
第 3 希 望	----- ----- ----- ----- ----- -----

※仕事に関して何に興味や関心があり、どんなことをがんばろうと思うか、具体的に書きましょう。

職種名	選んだ理由は？　どんなことをがんばろうと思いますか？
第 4 希 望	
第 5 希 望	
第 6 希 望	

## No.16 教材例（3）職場体験事業所決定に向けて例②（大竹市立玖波中学校）

### 事前学習第一次資料（職場体験を経験した先輩の感想文）

ここに紹介します『感想文』は、昨年度の『キャリア・スタート・ウィーク』シンポジウムにおいて発表した、各学校代表者のものの一部です。ご活用ください。

#### 『資料1』

私は、中国電力(株)大竹電力センターに職場体験に行きました。中国電力には、建物の中での仕事だけではなく、発電のためのダムにたまっているゴミを取り除いたり、操作する機器のさびを防ぐために塗装をしたり、送電設備を点検するために山を歩いて作業するなど、体験前に想像もしていなかったような仕事がたくさんありました。…（略）…、2日目の昇塔訓練で、鉄塔にのぼっているところです。私たちは、8m～9mくらいの高さまでのぼらせてもらいましたが、実際の仕事では、相当高いところまでのぼって、作業をするそうです。落ちないように命綱を3本つけ、ヘルメットに安全靴など、安全にはとても神経を使っていました。

私の職場体験にあたっての課題は、働くということがどういうことか、そして、学校で勉強することとどう違うのかということを知ることでした。私は職場体験をする前、働くということは、自分の得意分野を生かすことのできる楽しいものだというイメージを持っていました。しかし、1日目の暑い外でのいろいろな設備の点検などを通して、予想以上に仕事が大変だということに気づきました。そして、働いてお金を稼ぐということは、とても厳しいものだということを感じました。

私が職場体験に行った中国電力の事業所の方は、どの方も一つの作業に何度もチェックを入れていて、とても一つ一つの仕事に責任を持っているように思いました。また、つらい仕事でも絶対に手をぬかず、その仕事に誇りを持って働いているように見えました。そんな姿を見て、私は、将来自分も仕事に誇りが持てるような職業に就きたいと思いました。

普段の学校生活は、テストがあったり、宿題があったりして、仕事をしている方がきっと楽だろうと私は思っていました。しかし、勉強するかしないかは、自分にしか迷惑はかかりませんが、働いているときは、自分一人が仕事をしないということで、たくさんの人々に迷惑がかかってしまいます。その分、働くということは、とても責任があります。そして、その責任があるからこそ、一つの会社が成り立っているのだと思いました。

そして、このことは、私たちの学校生活の中の行事ともつながっていると思います。私たち玖波中学校の体育祭は、赤白にわかれての応援合戦があります。これも、一人一人がその演技に集中して、全員の息がピッタリと合わないと、優勝はつかむことができません。何か大きなものをつくったり、大きなことを成し遂げるには、そこにいる全員の力が必要です。そのようなことから、私は、働くということと、学校生活がつながっていることも学ぶことができました。

最後に、職場体験をする前、私は、親から「働くことの大変さは、働いてみないとわからない。」と言われていました。実際に仕事をしてみると、本当にそうでした。毎日、家族のために働いている両親に、改めて感謝しなければならないと思いました。5日間の体験は大変でしたが、とても達成感があり、私にとって有意義なものとなりました。

#### 『資料2』

僕は、デオデオゆめタウン大竹店で職場体験をしました。体験中のおもな仕事は、入荷した商品を倉庫に運ぶことと、店内に商品を陳列することでした。…（略）…、簡単そうに見える仕事ですが、箱が大きく、重たい物は台車を動かすのもひと苦労でした。職場体験をする前に、自分が考えていたのは、初めての体験で失敗することもあると思うけど、職場の人に対する礼儀だけは忘れずに取り組みたいと思っていました。

実際に職場体験をやってみて、1日目と2日目は、店長さんに指示されたとおりに動くことが多かったで

す。でも、3日目からは、自分たちで考えて仕事をやっていきました。具体的に自分たちでやったことは、倉庫整理と店内の掃除などでした。日がたつにつれて緊張もとれ、だんだん仕事が楽しくなってきました。事業所の方々の仕事を見ていると、商品が売れたときは、とても嬉しそうで、お客様から「広告に載っている商品がない。」とクレームがあったときには、素早く対応されている様子を見て、とても責任感や誇りをもって仕事をしているんだなと感じました。そして、何もできない僕に、親切に仕事内容や仕事の難しさ、社会の厳しさを教えてくださいました。

僕は、いつも親に「自分のことは自分でしなさい。」と言われてきましたが、あまりやろうとはしていませんでした。ですが、職場体験で自分の立場での責任を果たすことを学んだので、最近では布団をたたんだり、犬の散歩や食べた後の食器を片づけたりするように意識してやっています。家人にも、以前のように言われなくなりました。お金を稼ぐということは、とても大変だということがわかりました。いつも何気なく接している両親が、とてもありがたい存在に感じられました。職場体験をして、本当によかったです。

### 『資料3』

栗谷郵便局で5日間の職場体験をさせてもらいました。

郵便局を選んだ理由は、一つは、家に近いことです。そして、郵便局が地域でどんな役割を果たしていく、どんな仕事をしているのか興味が出てきたからです。電話をして、「郵便局で職場体験をさせてもらいたいのですが。」と言ったら、すぐに、「いいですよ。」と言われたので、安心しました。事前に体験先を訪問して、仕事内容や仕事に対してどういう考え方でやっていったらよいかを話していただきました。そこで、心構えとして、お客様に対するあいさつの声を大きくすることをがんばりたいと思いました。

郵便局で体験した仕事は、おもには窓口で切手やハガキを売ることでした。そして、ちょうどレターセットや記念切手を販売することになっていたので、買ってもらえるようにすすめながら、営業活動もしました。レシートを作ったりしました。郵便物に郵便スタンプを押す仕事もしました。終わりに、掃除をしました。最初は、どのようにしたらよいか、とまどったりしましたが、局長さんや職場の人に親切に教えてもらったので、ちょっとずつできるようになりました。ちゃんとできたときはうれしかったです。体験の中で、お客様が「ガンバレ。」など、いろいろ言ってくれて、応援してくれたので、そのときは、すごくうれしかったです。

職場体験で知ったことは、あいさつの大切さです。それは、あいさつをしたらお客様との話のきっかけができたりして、明るい雰囲気になったりしたからです。これは、どの仕事でも役立つように思えました。僕は、人にあいさつすることは苦手でしたが、体験先でできるようになったので、これから、いろいろあいさつをやっていきたいです。

また、郵便局は、地域にとって大切なものになっています。それは、手紙を運んでくれたり、小包を運んだりするのにも必要ですし、お金を振り込んだり、おろしたりすることもできます。あと、ハガキや切手なども郵便局で買えます。いろいろなことを郵便局でできます。なので、郵便局がなかったら、いろいろなことができなくなるので、郵便局は、地域にとっても大切なものです。あと、毎日明るく仕事をやられていたのがすごいとも感じました。

この5日間の職場体験では、やりがいのある仕事ができ、あいさつをするという大切さを学んだりできたのでよかったです。いい経験をすることができたので、これから学校生活に生かしていきたいと思いました。